

第2回静岡県緑化推進計画策定有識者会議議事録（要約版）

（第1部）

| 発言者 | 発言内容 |
|------|--|
| 西森委員 | 網羅的になっているので、この理念を補足するもう一声が欲しい。「花と緑の庭園県」は、都市部だけの話なのか、それとも農山村の景観、山間部の森林を含めた県全体の話なのか。内容を見ると県全体の話を書いているので、関係する方々が自分たちも関係するんだと理解できるような趣旨を加えたが良い。 |
| 飯塚委員 | 各事業は全部着手できるかもしれないが、基本理念となる、「花と緑が織りなす美しい庭園県・しずおか」のイメージを立て、それを実現するための責任を持つ人が必要。 グリーンバンクの今の器では推進はとてもできない。研修制度で誕生して来る人たちなど外部のコーディネーターを上手く使っていく。 |
| 矢澤委員 | 核になる人間を育てることから始め、各論のことはその次でいい。人づくりをやってハコ作りをする、そういう順番の方が良い。 |
| 渡邊委員 | 花と緑が美しくあるためには、裏の部分に目を向けることも大事。落ち葉かきや腐葉土づくりがあってこそ、綺麗に花が咲く。おもてなしの時は美しい姿を見せるが、そのための活動として地道な部分も組み入れることが必要。 |
| 渡邊委員 | （1）ウ「緑化活動の将来の担い手を育む」ところは、比較的低学年が対象になっているが、中学生、高校生の活動も組み入れる。各学校でやっている地域の清掃とか花壇の世話等、今やっていることを集め、認めていくだけでも、啓発になる。 |
| 水谷委員 | 計画策定の前提問題で守備範囲をどうするかというのがあるが、奥山は入るのか、どこで線を引くのか。 |
| 水谷委員 | 計画としては総花的にならざるをえないが、今計画の戦略プロジェクトとか重点プロジェクトとかが見えないがどうか。 |
| 飯塚委員 | 「実施主体」が、行政だけではなく、他の機関、たくさんではなくても良いので、少なくとも協力は得られる団体・企業の一つも入れて説得力のあるものにしないとパブコメも言いにくいのではないかと |
| 西森委員 | 実施主体で民間の名前は入れられないかもしれない。「協力」で入れれば良いかもしれない。 |
| 水谷委員 | 実施主体は担い手になっていない。実施主体というより支援する主体かもしれない。 |

| | |
|------|--|
| 矢澤委員 | <p>自分が各地で関わっている人づくりの例を紹介する。</p> <p>①兵庫県三木市・小野市での取組</p> <p>今年で 15 年継続。一般の方を募集し、行政のバックアップで花好きの人たちを育成。1 年目座学、2 年目実践。</p> <p>卒業生は、公園緑地課で働いたりしている。生産もできて、苗も植えられて、デザインもできる 3 拍子揃った核となる人達がたくさん育っていて、これらの核となる人達を中心に「ハーブのまち小野市」という取組が行われている。</p> <p>先に公園を作るのではなく、市で教育をした市民が、市民による市民のための公園づくりという基本概念がある。</p> <p>②新潟県新潟市のキラキラガーデンの取組</p> <p>民間でやっていて、年会費 2 万 5 千円でも、毎年 20～30 人集まる。教育された人材によるまちづくりは始まっている。人づくりは、ゆくゆくはまちづくりに繋がる。</p> <p>③長野県での森の学校の取組</p> <p>森の学校の校長をやっている。親子で来てもらっている。子供よりも親の方が知らない。毎年 5、60 人来る。木の管理組合に来てもらい、実際に伐ってもらったりして、一連のストーリーを作って、森の大切さを教えている。</p> |
| 水谷委員 | <p>担い手作りをしながらおもてなし空間を創る、同時にやっけないと持続的にはならない。</p> <p>県は、地域緑化の担い手には直接ならないので、仕組や制度、支援体制などを作っていく。</p> |
| 飯塚委員 | <p>たった 10 年間で全てをやるのは難しい。</p> <p>この計画では、1 つか 2 つ、これが静岡県の緑化というものを立てればいいのでは、例えば、連携のよさ、人の育成とか良いところを綺麗に立ち上げて、それが将来、広がるようにしていく。</p> |
| 水谷委員 | <p>担い手で芽吹いている例、私たちが知らない範囲で静岡県内でもいる。今現在の担い手、人づくりの現状が触れられていないような気がする。</p> |
| 渡邊委員 | <p>芝と親しむとか現状で取組む団体の把握はしてありますよね。この文章だと、やっけないことに対する取り組みのように見えるので、これまでやっているものの事例、今までこんなものがありました、と少し記載してもよいと思う。</p> |
| 飯塚委員 | <p>他県から来た人間には、茶畑は素晴らしい財産。富士山とセットで外せない。どこのアングルから撮影すれば良いとか見出せばよい。</p> |

| | |
|------|---|
| 渡邊委員 | (4) イ「四季折々の花の名所めぐり」について、花だけでなく、紅葉や、青いモミジが綺麗だったり、伊東などはミカン畑の季節、農業的な景観、植物が入った景観、自然景観は素晴らしいものがある。今ある自然、景観を素晴らしいものだと捉え直すことによって、身近に当たり前だと思っていたけど、素晴らしいものだというのを県民自身が気付いて、誇りに思いながら生活することがベースにあるべき。 |
| 矢澤委員 | 御殿場の関連活動で、東海道ガーデンロードを作る取組を2年前から進めている。箱根から始まって御殿場から西へと少しずつ進んでいる。 北海道のガーデンロードは3泊4日で全部周ろうということで大人気になっている。 こんな暖かいところで、一年中いろいろな風景があって、ガーデンロードが成り立つので、拠点拠点、民間施設も公共施設もあるから、点を結んで観光施設として、二泊三日で周れるようなら、そういった取組をしていただきたい。 |
| 西森委員 | (1) オ「森づくり」のところで、参加させるというよりは、森の良さを、あるいは森のメリットみたいなものをどうやって理解してもらうかという、ことがカギになる。 |
| 西森委員 | 1 (カ)「公共施設の緑化」について、基本方針を見ると、緑化を進めます、となっているが、大事なはその先のメンテナンスではないか。 アダプト制度は実施しているが、併せて市民参加できるしくみを加えていくこと。 |
| 西森委員 | (4) ア「さくら」だけを単独であげることに違和感がある。サクラの保全が重要ならばマツも入れるべき。 |

(第2部)

| | |
|------|--|
| 西森委員 | 実際に事業をする市民にとっての事業は単年度事業か、複数年事業か。現場の人たちが、長い目で見て緑化をしていく意識を持たせるのが大切。 全体としての PDCA だけでなく、ボランティア自身も自分たちを評価できるようにした方が良い。 |
| 飯塚委員 | 都市緑地における最近の傾向は、企業を取り込んでいる。アイデア・行動に積極性、斬新さが必要。グリーンバンクにも他業種から新しく人材を入れた方が良い。でないと論点2の実現は難しい。 |

| | |
|------|---|
| 矢澤委員 | 資料 10 に生産者が入っていない。県の花を生産しているプロ集団がないのは、おかしいと思うので入れるべき。県・市町も是非生産者の力を活用してほしい。 また、県試験場の関係者も入れて技術を活用してはどうか。県と一般の皆さんが一体化できると思う。 |
| 水谷委員 | 緑化推進会議といつつ、推進する人がいない、何の機能を果たすのかな、と感じた。 |
| 渡邊委員 | (資料 10 の左上) 三島市ではガーデンシティ推進協議会というのがある。商工会議所の会頭が会長になっており、企業も参加している他、PTA連絡協議会、従来の花の会などが構成員となっている。ここで活動している人達の方針がまとまっていれば行政の担当者が変わっても継続して取組がしやすい。 |
| 飯塚委員 | 緑化を支援する団体の中に、周りの団体や人を巻き込んでネットワークで仕事を進めていける人を据えないといけない。それがすごく大事。 |
| 西森委員 | 資料 10 の真ん中に緑化推進協議会から地域への支援内容のところに、人的支援と書いてあるが、ここに緑化コーディネーターとはっきり書いた方が良いのではないかと。 そういう人がいれば、市町担当者の異動に関係なく地域緑化の継続性がでてくる。 |
| 西森委員 | 資料 10 の緑化推進協議会と地域の位置は上下逆にすべき。 |
| 飯塚委員 | 資料 11 の図は、グリーンバンクが色々な機能を持つことは分かるが、造園協など GB への技術的支援があることを明記した方が、誤解がないのではないかと。 |
| 水谷委員 | 経験・知識・技術・つながりをアドバイスできるコーディネート人材を、緑化を進めたい地域に派遣してあげることが重要。こういう人材はボランティアではできない。 本来はグリーンバンクにそういう専門家がいてほしい。 その専門家が緑化のプラットフォームになる。 プラットフォームになる人はそれ専門で生活できるようにしてあげることが必要。 地域コーディネーターについては、業としてやっている人を、本業にもプラスになるからということで活用する方法もある。 |
| 飯塚委員 | 普段は植物・生物専門の人が中心でいいが、例えばおもてなしとしてやっていくにはその地域で地域の連携を得手とする人が中心となってやっていく必要がある。 |

| | |
|------|---|
| 矢澤委員 | 小野市で実施しているマイスター制度は、地域活動の核となる人を輩出するために立ち上げた。核人材には、人の信頼を得て、多くの人を引っ張っていただけるような人を選ぶ。できればその地域の中から育てる方がいい。 |
| 西森委員 | コーディネーターとなる人は、ボランティアのリーダーでなく生業となるようにしないといけない。東伊豆町の黄花プロジェクトの時は観光協会に入っている造園屋さんがやってくれた。地域にいる専門の人を動かすには、単純に緑化だけではなく、おもてなし空間とか観光客の誘致とか、何かに繋がる形にしないといけない。 |
| 渡邊委員 | 今、私たちがやっている三島の水道跡公園整備のグループは造園屋の社長が指導してくれている。 活動する人から若い造園屋さんに声をかけて地域活動に出てもらって、地域住民と繋がってもらおうようにしている。一歩ふみ出し始めて、スイッチが入ると、どんどん進んでいく。最初は行政のサポートを必要とするが、軌道に乗ると、別のイベントなど他の場所で派生して活動してくれる。 業としてやっている人に活躍の場をあげると発展的に活動が進む。そのきっかけづくりが必要。 |
| 水谷委員 | →そのきっかけづくりをする人がコーディネーター。 |
| 渡邊委員 | →きっかけ作りは行政職員が、2・3年いる間でもできる。 |

(まとめ)

| | |
|------|---|
| 飯塚委員 | 体系図に記載のある業務全ては網羅的すぎる。パブコメなどに出すときは、全部出すのではなく、優先的事業を1、2個出せば良いのでは。 |
| 西森委員 | 言葉の数を2～3割減らす方が良い。必要なことをシンプルに。一番キーになるのは人づくりのところだと思う。 |
| 渡邊委員 | 引っ張り出すのが行政なのか地域住民なのかは地域によると思うが、若手のプロを引っ張り出して来ることが必要。潜在的に活躍できる人に活躍の場を与える事が必要。 |
| 矢澤委員 | この活動をしていくなかで、人が最も重要。「人を育てられる人を育てる」ということ。 もう1点、子ども達への教育の活動プランを是非盛り込んでほしい。 |
| 水谷委員 | 記載は総花的になるのかもしれないが、事業は全体的に絞り込んだ方がいい。地域の希望やポテンシャルを引き出すために、重点的には「地域の担い手づくりを支援する担い手を作る」ことになるのではないか。 |